

## 2. 緑の現況と課題

### 2-1 緑の現況

#### ①都市公園の緑

- ・市内では136カ所129.55ha(1,295,542㎡)の都市公園が供用されています。市民一人当たりの公園面積は10.3㎡となっています。
- ・公園の箇所数は、昭和60年39箇所(70.02ha)、平成5年61箇所(97.04ha)、平成17年112箇所(107.51ha)と着実に整備が進められています。
- ・住区基幹公園は地区公園3箇所、近隣公園13箇所、街区公園115箇所となっています。
- ・都市基幹公園は運動公園として大谷津運動公園・中台運動公園・下総運動公園の3箇所、総合公園として坂田ヶ池総合公園があります。
- ・特殊公園は墓園として、いずみ聖地公園があります。

#### ②河川、湖沼の緑

- ・市内には利根川をはじめ、根木名川・大須賀川などの中小河川が流れています。また、市の西部には印旛沼の大きな水面が広がっています。
- ・利根川、根木名川、大須賀川や印旛沼などにおける治水対策が進められています。
- ・大須賀川や江川などの準用河川の改修などが進められています。
- ・根木名川、取香川を中心とした「花の回廊構想」があります。

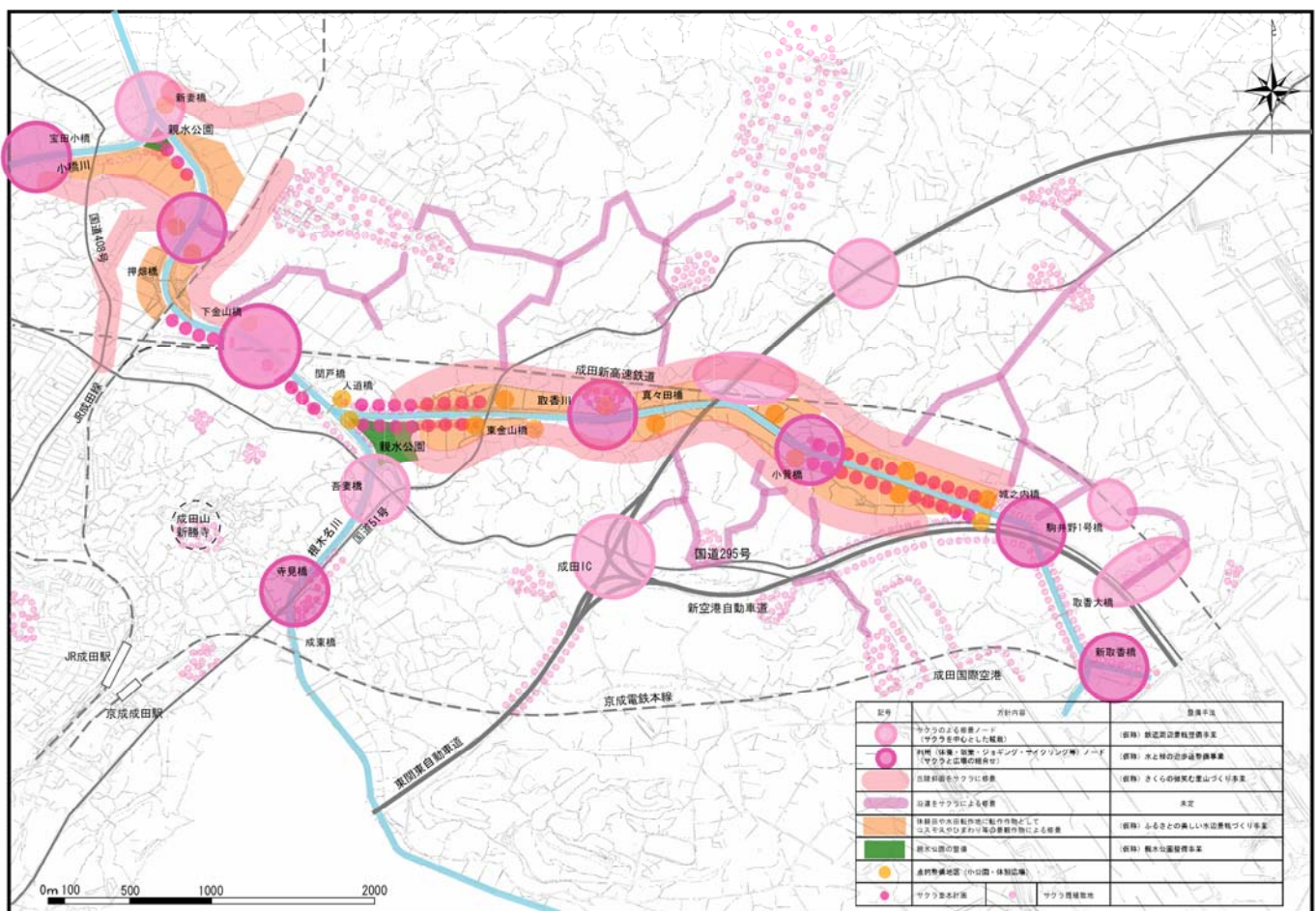


図 花の回廊構想



### ③道路の緑

成田ニュータウン、公津の杜駅周辺の新しい市街地には街路樹のある道路の緑が連続しています。

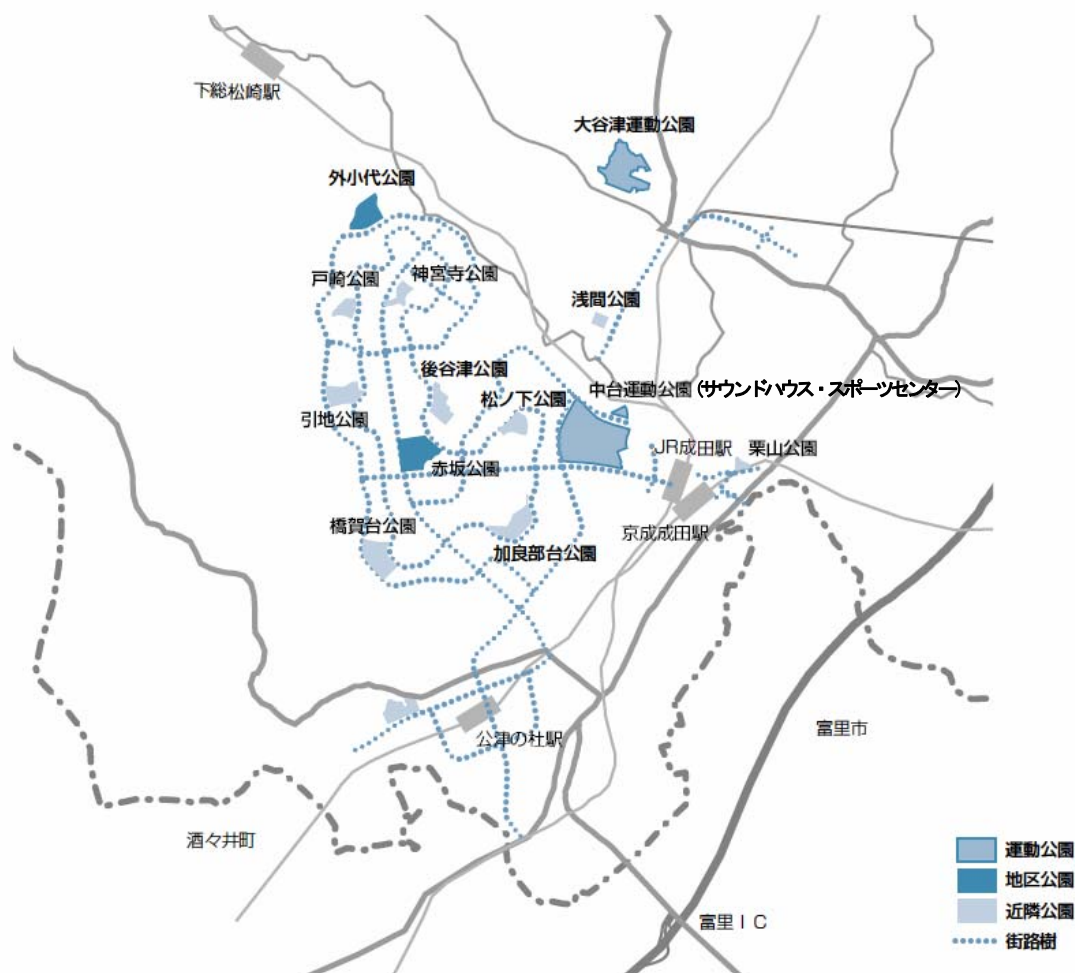


図 街路樹の状況（都市計画マスタープランより）

### ④公共施設の緑

市役所をはじめとする公的な建物において緑化が進められています。

### ⑤民有地の緑

成田ニュータウン地区及び公津の杜地区内の大規模マンション及び駅周辺のホテルなどの外構部に緑地が確保されています。

### ⑥里山の緑

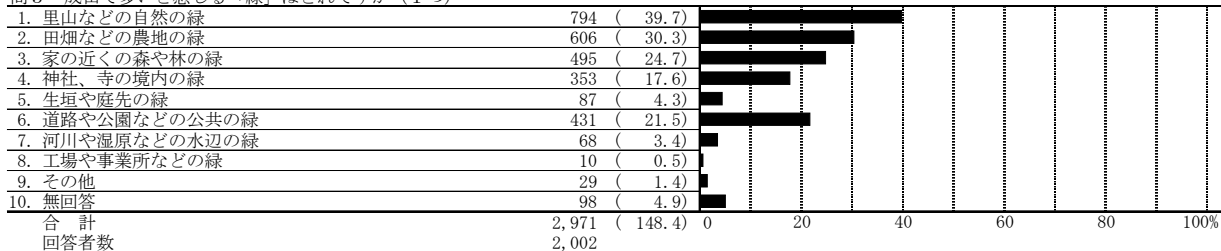
市内に谷津田や斜面林、農地周辺の樹林地など、里山の緑が残っています。

## 2-2 市民の意識と活動

### ①成田で多いと感じる緑

市民アンケートの結果から、成田市の緑に対する印象で最も多い回答は「里山などの自然の緑」(39.7%)であり、続いて「田畑などの農地の緑」(30.3%)、「家の近くの森や林の緑」(24.7%)、「道路や公園などの緑」(21.5%)となっています。

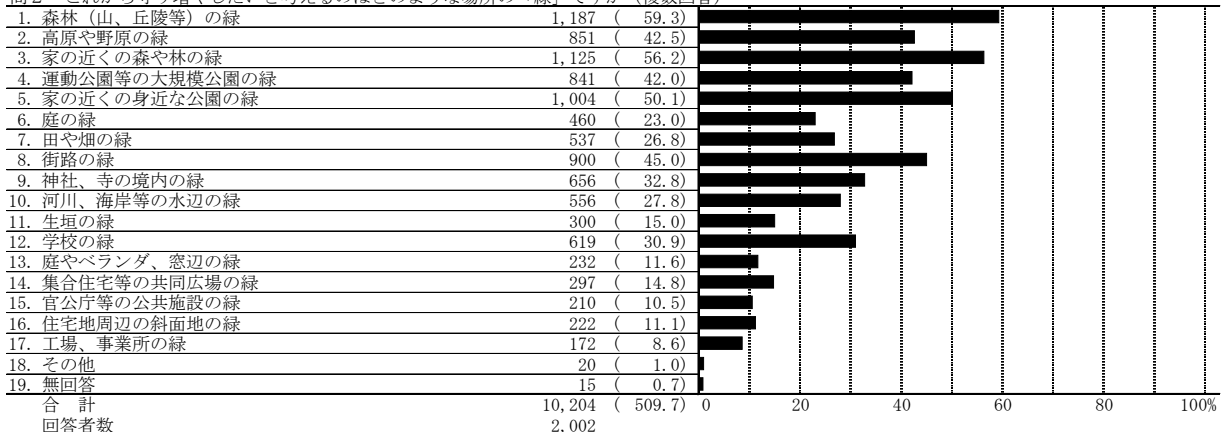
問3 成田で多いと感じる「緑」はどれですか（1つ）



### ②守り増やしたい緑

これから守り増やしたい緑についての最も多い回答は「森林(山、丘陵等)の緑」(59.3%)、続いて「家の近くの森や林の緑」(56.2%)、「家の近くの身近な公園の緑」(50.1%)、「街路の緑」(45.0%)、「高原や野原の緑」(42.5%)となっています。

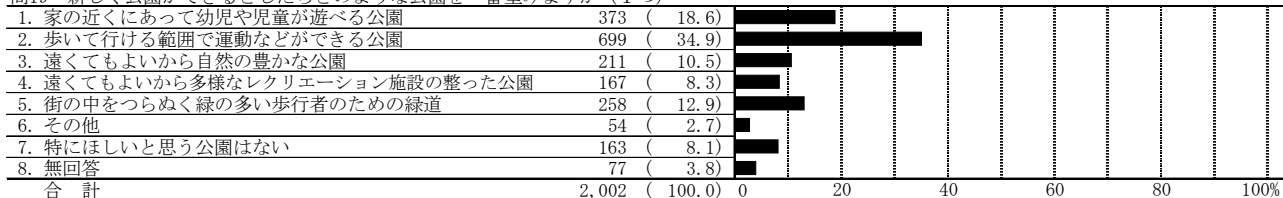
問2 これから守り増やしたいと考えるのはどのような場所の「緑」ですか（複数回答）



### ③新しい公園への希望

新しい公園に対する希望で最も多い回答は「歩いて行ける範囲で運動などができる公園」(34.9%)となっており、次いで「家の近くにあって幼児や児童が遊べる公園」(18.6%)となっており、身近な公園が求められています。

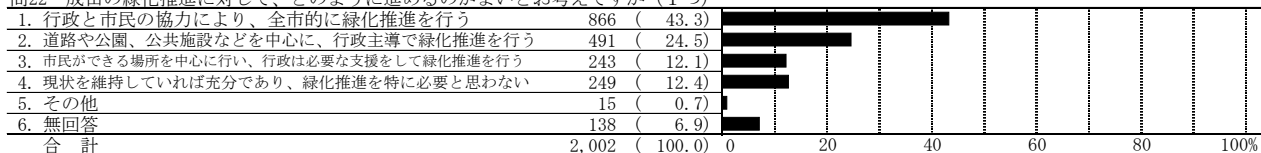
問19 新しく公園ができるとしたらどのような公園を一番望みますか（1つ）



#### ④緑化推進の進め方

成田市の緑化推進については「行政と市民の協力により、全市的に緑化推進を行う」(43.3%)が最も多く、次いで「道路や公園、公共施設などを中心に、行政主導で緑化推進を行う」(24.5%)となっています。

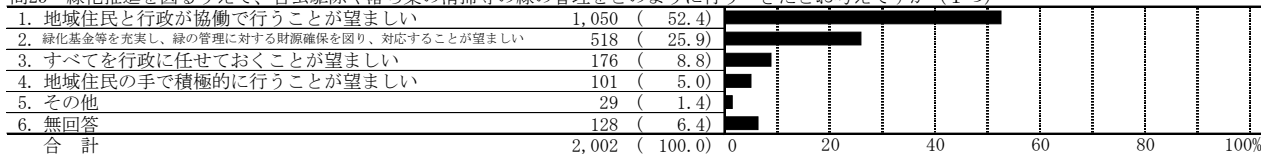
問22 成田の緑化推進に対して、どのように進めるのがよいとお考えですか (1つ)



#### ⑤緑の管理

緑の管理については、「地域住民と行政が協働で行うことが望ましい」(52.4%)が最も多く、次いで「緑化基金等を充実し、緑の管理に対する財源確保を図り、対応することが望ましい」(25.9%)となっています。

問23 緑化推進を図るうえで、害虫駆除や落ち葉の清掃等の緑の管理をどのように行うべきだとお考えですか (1つ)



利根川



印旛沼

## 2-3 社会環境の変化

### ①人口、世帯数

- ・平成 21 年(12 月末)の人口は 126,208 人、世帯数は 53,498 世帯（出典：住民基本台帳）で、増加傾向が続いています。
- ・年齢 3 区分別人口は、年少人口(0 歳～14 歳) 14.1%、生産年齢人口(15 歳～64 歳) 70.2%、老年人口(65 歳以上) 15.7%で、少子高齢化が進展しているものの周辺市町村のなかでは比較的緩やかに進展しています。（出典：平成 17 年国勢調査）
- ・平成 21 年(12 月末)の地区別人口は、ニュータウン地区 34,275 人、公津地区 26,177 人、成田地区 18,407 人（出典：住民基本台帳）で、この 3 地区に市全体の 62.5%が集まっています。

### ②少子・高齢化の進展

- ・我が国は、平成 17 年（2005 年）年に人口減少局面に入っており、国立社会保障・人口問題研究所によると、今後、一層少子高齢化が進行し、本格的な人口減少社会になる見通しとなっています。平成 67 年（2055 年）には合計特殊出生率は 1.26、人口は 9,000 万人を下回り、高齢化率は約 4 割、1 年間に生まれる子どもの数は 50 万人を下回る少子高齢化の進展が示されています。
- ・本市は、全国及び千葉県に比べ年少人口割合がやや高く、老年人口割合がやや低い現状のまま推移するとみられるが、おおむね 10 年後には 5 人に 1 人が老年人口になるものと予測されています。

### ③市民意識の変化

- ・社会の成熟や昨今の景気低迷により、人々の価値観は物質的な豊かさから心の安らぎ、自然とのふれあい、家族と過ごす時間等に移行しています。
- ・また、ボランティアや NPO による社会貢献活動、地域コミュニティの中での豊かさの実現などへの関心も高まっています。

### ④地球環境への意識の高まり

- ・地球温暖化の進展、異常気象や局地的な風水害などにより、地球レベル・地域レベルの環境問題への関心が高まっています。
- ・太陽光発電などの自然エネルギーの導入、エコカーなどの普及による、循環型社会の構築や、低炭素社会づくりが求められています。

## 2-4 成田市の緑の課題

これまでの緑を取り巻く状況や市民の意識等をふまえ、本市の緑に関する課題を次のとおり整理します。

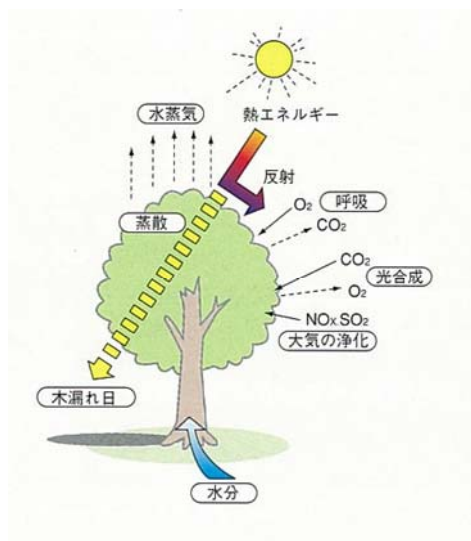
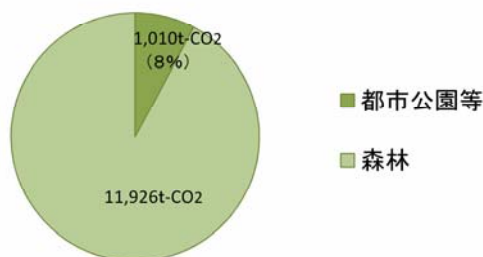
### ①骨格となる緑の保全・再生

～里山の環境保全機能の維持と充実～

市内に残る樹林地や谷津田、里山の緑は郷土の骨格となる緑であり、景観的な役割、都市環境の改善や生物の生息生育空間、レクリエーション、二酸化炭素の吸収・固定などの機能を有しています。これら、骨格となる緑を積極的に保全・再生を図ることが必要となります。

- 郷土の景観保全、二酸化炭素の吸収源としての樹林地の保全のため、管理の行き届かない里山について市民と協働して管理活動を広める必要があります。
- 県内・市内では、「千葉県里山条例」のような保全・整備・活用の先進的な取組がなされており、同様の取組を広げていくことが望まれます。
- 市民との協働による活動を中心とした、緑地の保全・活用の取組が望まれます。
- 行財政の状況を踏まえ、緑地などの買い取りを含む保全制度には限界があることから、地域指定や協定などの保全対策を活用する必要があります。

年間CO<sub>2</sub>吸収量



年間CO<sub>2</sub>収支



図 緑の環境保全機能と成田市の緑による地球温暖化防止効果

## ②緑と水辺空間の連続性の確保

～里山・樹林地の緑と河川を結び、生物多様性を維持し生態系ネットワークを確保する～

市内を流れる利根川、根木名川、取香川につながる樹林地や里山を連携させて、連続的な緑を確保するとともに、生態系ネットワーク・レクリエーションネットワークを強化することが必要となります。

- 市内を流れる河川は市街地における連続的な自然環境であり、里山・谷津田・樹林地と市内に流れる河川とを結ぶことにより、生物の生息・生育空間となります。大規模開発などにより、水辺と樹林地等の緑との連続性が減少していることから、これらの連続性を回復・強化し、生態系ネットワークを形成していくことが必要となります。
- 河川を中心とした生態系ネットワークは、散策などの市民レクリエーションの場としても優れており、多自然川づくりを進めるとともに周辺の緑地との連携により、自然環境とレクリエーション空間が一体化した整備を図ることが必要です。
- 谷津田とその周辺農地は郷土の原風景の一つであり、また、地下水位が高く通年を通して湿田状態であることから、希少な生物の生息場所になっています。これらの環境の面的な保全が必要となります。

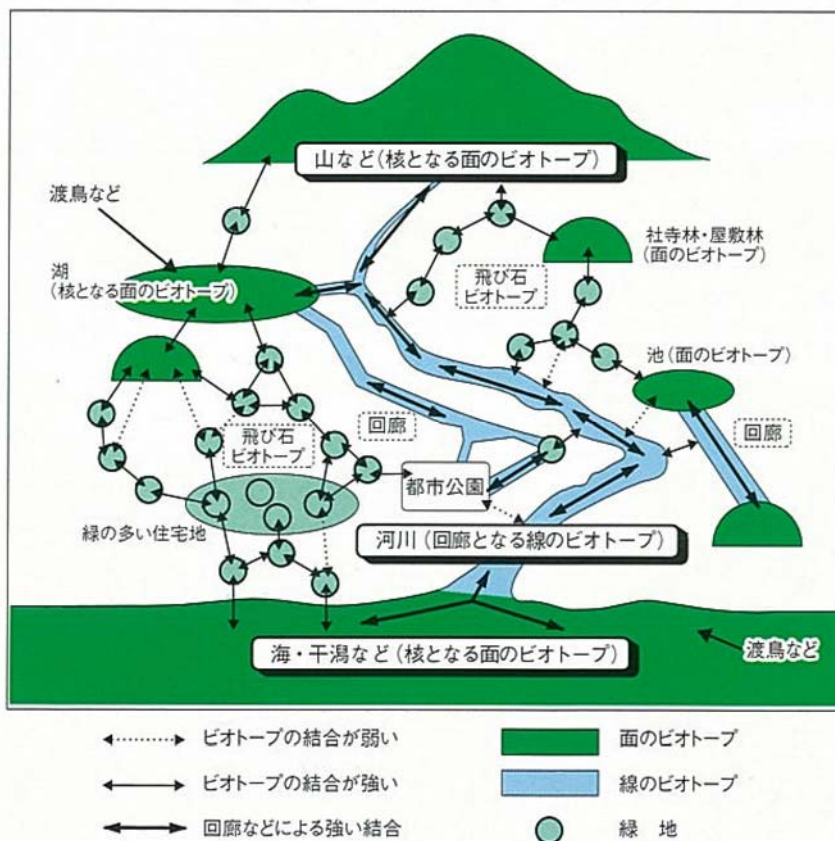


図 生態系ネットワークのイメージ



### ③まちの魅力向上のための緑と歴史景観づくり

～まちの風格を高め快適にする緑づくり～

まちに活力を与え、より多くの観光客に訪れてもらうためには成田国際空港からの都市景観を含めて緑豊かな風格のあるまちづくりを進める必要があり、歴史的な景観整備を進める地域にあっては、周辺地域の緑地を保全していくことが求められます。

- まちに活力を与えるためには、交流人口を増加させることが必要であり、そのためには何度も本市を訪れたくなるような魅力的な都市景観、緑豊かな風格ある都市景観が求められます。
- まちづくりが進められている成田駅周辺、成田ニュータウン、公津の杜、はなのき台、成田国際空港周辺などで、地区の顔となる緑豊かなまちづくりを進める必要があります。
- 観光客が多く集まる成田山新勝寺周辺では、歴史的な景観整備を進めるとともに周辺緑地の保全をしていくことが必要となります。

### ④新たな市民ニーズ・社会ニーズに対応した身近な緑の充実

～主として、公園の適正配置及び既設公園のリニューアル～

社会環境の変化の中、身近な緑へのニーズは大きく変化しています。新たな緑のニーズに応えるため、都市公園の適正配置と既存公園の再整備を行うことが必要となります。

- 少子高齢化の進展や市民の生活の多様化により、身近な場所に多様なレクリエーション機能を持つオープンスペースが必要となっており、これらの機能を担う都市公園等が近くにない地域においては新たな配置が求められます。
- 子どもを安心して育てることができる環境となる都市公園等の機能充実が必要となっています。
- 公園の緑が犯罪の温床にならないように、公園施設整備や防犯のための見通し確保などが望まれます。また、安全に遊べる公園施設とするために安全管理などの体制を強化することが必要です。
- 既存の都市公園について、様々なニーズに対応した施設の更新が望まれます。
- 高齢化社会の進展に対応し、健康増進に活用できる施設の整備や市民活動、ボランティアの場となる公園づくりが必要となっています。



図 都市公園の配置モデルパターン

### ⑤安全・安心な緑空間の確保

～地震火災時の延焼防止、災害時の避難地・避難路等の充実～

都市防災は都市づくりの大きな課題となっており、避難地・避難路の確保等に寄与する都市公園等のオープンスペースの適正配置や街路樹整備等を進めることにより安全・安心を確保することが必要となります。

- 地震による火災延焼を防ぐとともに避難空間や救助・救援、復旧・復興拠点となるなど、都市の防災性・防災機能を向上させる都市公園や街路整備など、オープンスペースの緑を確保する必要があります。
- 都市公園等オープンスペースは避難地機能だけでなく、ヘリポートや部隊の活動拠点等の救援拠点としての機能充実が必要となります。
- 公園利用者の安全確保と公園での犯罪防止対策を進める必要があります。

#### 自衛隊や消防などの活動拠点としての公園の活用例



長岡市 国営越後丘陵公園



小千谷市 市営白山運動公園



成田市の防災訓練



## ⑥市民・事業者との協働による緑のまちづくりの推進

～市民・事業者の緑のまちづくりへの参加促進～

都市の緑を積極的に保全・創出していくためには、行政による整備だけでなく市民・事業者との協働が課題となります。ボランティアやNPO活動など市民活動が活発化するなか、行政による支援制度の充実・情報発信の推進が必要となります。

- 市民・事業者と協働し、緑のまちづくりへの参加活動を促進することが求められます。
- 緑の管理等の保全活動に参加したいという市民意向を踏まえ、身近な公園や街路樹・里山等で活動してもらうためのしくみ・制度の充実が必要となります。

成田市現状モデル

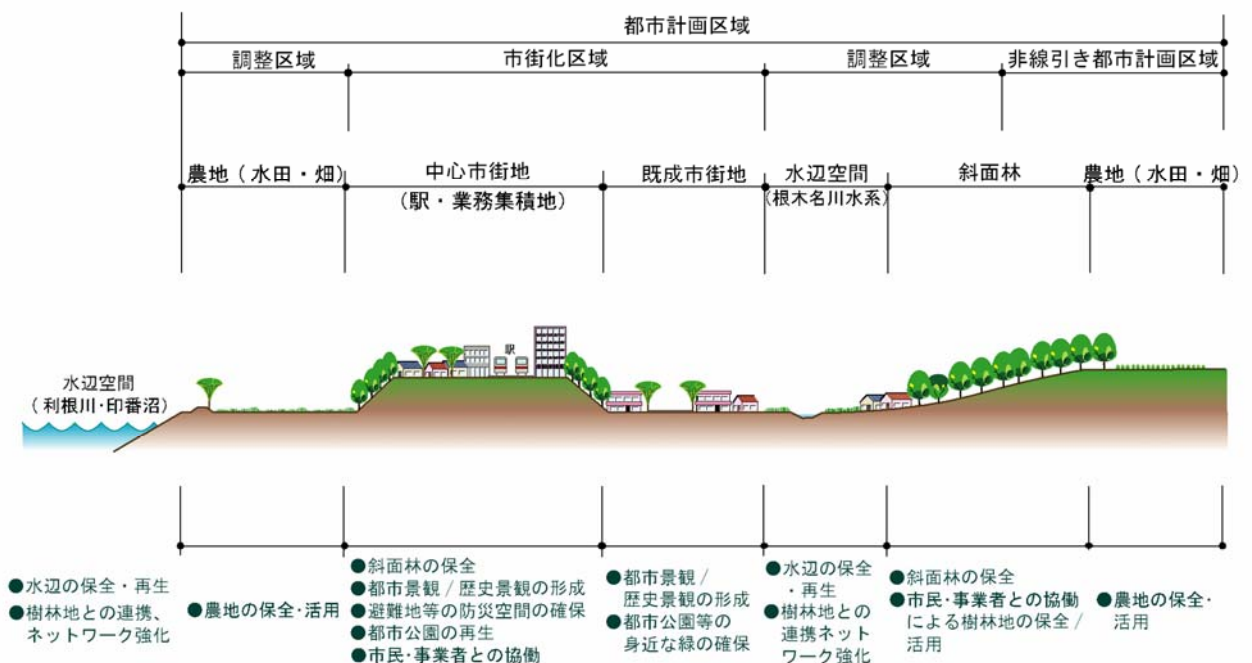


図 緑の課題図

